

(別表第1)

# サービス評価結果表

## サービス評価項目

(評価項目の構成)

### I.その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

### II.家族との支え合い

### III.地域との支え合い

### IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 4年 12月 14日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 10名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	3名	

#### ※事業所記入

事業所番号	3870104068
事業所名	アトラス奥道後
(ユニット名)	Aユニット
記入者(管理者)	
氏名	笹田 真由美
自己評価作成日	令和 4年 11月 16日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】</p> <p>笑顔のたえない場所にしよう 自分らしくいられる場所にしよう 会話の多い場所にしよう</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回のアンケート結果で、管理者や職員等の異動・入・退職などの報告がありますか？の質問でほとんどのご家族様がご存じなかったため、新人が入った時には顔写真の入った職員紹介をお送りし皆様を知って頂くよう努めた。</li> <li>・ご利用者様が生き生きと楽しく過ごしていただけるよう職員とアイデアを出し合い、YouTubeが観れるようにして好きな番組を順番にリクエストしてもらっている。</li> <li>・防災面も避難訓練等を行い、どのようにしたらスムーズに避難できるか納得がいくまで話し合い意識向上に努めた。</li> </ul>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>企業の元保養所を改装した2階建ての事業所は、市中心部から少し離れた自然豊かな場所に立地している。母体法人は市内にある医療機関で、リハビリ器具を使用した歩行訓練や下肢筋力などのリハビリを実施するほか、日常の中でできる生活リハビリを介護計画の中に取り入れ、利用者一人ひとりの心身機能の維持や向上に向けて取り組んでいる。事業所には看護師が配置され、主治医と24時間体制の連携を図りながら、利用者や家族の希望に沿った看取り支援を実施するとともに、医師が終末期の利用者の様子をモニターで診ることのできる体制も整備され、利用者や家族、職員の安心感にも繋がっている。また、法人・事業所として、職員の福利厚生や待遇面も充実しており、良好な職員同士の関係が築かれるなど、安心して働くことのできる職場環境が整えられ、長年勤務する職員も多い。さらに、多くの職員が介護福祉士の資格を取得しており、スキルアップできるような支援体制も整えられている。コロナ禍において、地域行事の参加や幼稚園児等の訪問できる機会は中止されているが、これまで培ってきた地域との繋がりを継続し、近隣住民と挨拶や会話を交わしたり、野菜などの差し入れを持ってきてくれたり、気軽に事業所に立ち寄る近隣住民がいるなど、交流を図ることもできている。加えて、自然豊かな事業所周辺の環境を活かして、日常的に散歩に出かけたり、庭で外気浴をしたり、感染状況を見計らいながら、買い物やドライブに出かけるなど、少しでも気分転換を図ることができるよう支援が行われ、利用者は穏やかな生活を送ることができている。</p>
---	--	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I. その人らしい暮らしを支える</b>									
<b>(1) ケアマネジメント</b>									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	日々の声掛けや見守り中、ご家族様との話し合いの中で思いや暮らしの希望、意向の把握に努めている。1日の過ごし方を通じ、意向をくみ取ることができる。	◎	/	◎	入居前に、管理者等は利用者や家族から、思いや暮らし方の希望などの聞き取りをしている。日々の会話の中で、利用者から新たな情報を聞くとともに、意思疎通の難しい利用者には、表情や様子から思いをくみ取るよう努めている。また、把握した情報は記録に残すとともに、申し送りやミーティングなどの機会を活用して、職員間で情報を共有している。
b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	1日のご本人様の行動・言動に気を配り、話を傾聴する時間を持つようになっている。	/	/	/			
c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	コロナ禍、面会制限をしている中ではあるが、ご家族様が面会や用事があつて来られた時は出来るだけ会話をする時間を持つようになっている。	/	/	/			
d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	3カ月に1回アセスメントをし、担当者会議にて職員全員で検討し共有している。	/	/	/			
e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	日々の会話の中から意向や思いを感じ取り、カンファレンス等で職員全員が共有できるようにして意見交換している。	/	/	/			
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	入居時にご本人様やご家族様から生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境等をしっかりとお話を聞き、職員間で把握するよう努めている。	/	/	△	入居前に、管理者等は利用者や家族から、生活歴や馴染みの暮らし方、大切にしてきたこと、こだわりなどの情報を聞くよう努めている。以前利用していた介護サービス事業所の関係者や介護支援専門員から情報を聞いたり、病院や施設等からサマリーなどの提供を受けることもある。また、把握した情報は、アセスメントシート等を活用して、職員間の情報共有に努めているものの、中には、意思疎通の難しい利用者もあり、利用者一人ひとりのシートの記録に、情報量の差が見られるため、新しい職員が見ても分かりやすいように、様式を統一して情報を整理するなど、利用者の人物像が見えてくるような記録が残されることを期待したい。
b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	ご利用者様が出来る事は役割をもってもらえるように支援している。職員間で、ご利用者様のでき・できそうなことは何かを日々の生活で把握し、申し送りしている。	/	/	/			
c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	◎	日々の記録に記入し、状態変化などを把握し、パソコンや朝の申し送り等で情報を共有している。	/	/	/			
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	介護保険更新時の訪問調査には可能な限り家族様には同席しをお願いしており、ご本人様・ご家族様の意見を聞き介護計画の見直しを行っている。来られない家族様には電話で意見を聞くようにしている。	/	/	○	把握した情報をもとに、利用者本人の目線に立ち、職員間で何を求めている、何が必要なのかを検討している。コロナ禍において、面会制限が設けられ、担当者会議に家族が参加することができず、事前に電話連絡時や来訪時を活用して、意見や要望などの聞き取りをした記録を残すことができている。
b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	◎	担当者会議にて職員全員でご利用者様の課題を検討し、話し合いをした内容を元に見直しをしている。	/	/	/			
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	ご本人様の意見を聞きながら、月1回担当者間でカンファレンスを行い検討している。	/	/	/	把握したアセスメント情報や聞き取った意見をもとに、担当者会議の中で話し合い、計画作成担当者が、利用者や家族の意見のほか、主治医や関係者、職員の意見を反映した介護計画を作成している。また、計画のサービス内容には、歩行器での廊下往復や下肢の筋力運動などが明記され、日常の中でできる生活リハビリのメニューを取り入れることもできている。
b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	コロナ禍の為に面会は制限しているが、用事や面会時には出来るだけご家族様と話をし、意見を聞いている。遠方の方には電話で話をしている。	○	/	/			
c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	ご家族様等から情報を聞き、慣れ親しんだことを取り入れるようにしている。	/	/	/			
d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	地方祭は地域の方々や御神輿や獅子舞を披露して頂いたり、奉納祭等ご利用者様が参加できる行事は地域の方々や連携を取り行っている。	/	/	/			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	介護計画の内容を職員間で把握できるよう、いつでも確認できる見やすいところに置いている	/	/	◎	介護計画は、担当者会議の中で話し合いが行われ、職員間で内容の把握に努めるとともに、職員がすぐ確認できる場所に、個別のファイル等を置き、確認できるようになっている。また、利用者毎のサービス計画チェック表の様式には、上の部分に短期目標とサービス内容が転記され、計画に沿ったサービス内容の実施の有無などを記載できるよう工夫されている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	サービス計画チェック表を記入し、その結果どうだったか担当者が記録し、毎月1回のミーティングで話し合い、日々の支援につなげている	/	/	◎	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	3か月ごとに見直しを行っている。入院・退院した場合や状態が変化した場合に直ちに見直しを行っている。	/	/	◎	3か月に1回アセスメントと担当者会議を実施し、介護計画の見直しをしている。サービス計画チェック表をもとに、毎月実施するミーティングの中で話し合い、利用者一人ひとりの現状を確認している。また、利用者の心身状態に変化があった場合には、随時見直しや検討を行い、現状にあった介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月モニタリングを担当者と話し合いプランの見直しを行っている。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	状態の変化が生じた場合はその都度家族等と話し、プランの見直しを行っている。	/	/	◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	毎月ミーティングをし緊急案件の場合はその都度話し合いをしている。	/	/	◎	毎月実施するミーティングを活用して、利用者の現状確認や担当者会議を実施するほか、職員間で話し合いをしている。職員が会議に参加しやすいように、毎月の開催日時を固定する工夫をしている。また、1階と2階の両ユニットが合同のミーティングを実施することで、双方の利用者などの情報共有を図ることができている。さらに、緊急案件のある場合には、その日に出勤している職員で迅速な話し合いをしている。加えて、話し合われた内容は議事録を作成して確認してもらうとともに、参加できない職員には口頭での伝達も行われている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	会議は二人ペアで担当を決め 全員が意見交換できるようにしている	/	/	◎	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	◎	出来るだけ職員全員が参加できるように担当者が日程を早めに決め、司会・書記等を行っている。出席出来なかった職員にも議事録を閲覧するように徹底している。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	申し送りをP・Cを使い出来るだけ細かく入力している。伝達事項も入力し、重要なこととご利用者様の様子等は、毎朝ミーティングで口頭でも伝えるようにしている。	◎	/	◎	日々、夜間帯から朝の申し送りは両ユニットが合同で行い、職員間で情報共有をしている。また、勤務に入る前に、職員は必ずパソコンを活用して、休日分まで遡って申し送り事項の確認を行い、職員間で情報の伝達漏れがないように努めている。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	希望はなるべく開くようにはしているが、毎回は不可能なこともある	/	/	/	日々の着る洋服を自分で選んでもらったり、散歩やカラオケなどのその日にやりたいことを決めてもらったり、見たいテレビ番組を選ぶなど、職員は利用者になを声をかけて、自己決定してもらえよう支援している。畑の世話が好きな利用者には、一緒に水やりや草引きなどを手伝ってもらったりもする。また、職員は利用者一人ひとりの得意なことや好きなこと、やりたいことを把握して、ぬり絵やカラオケなどのレクリエーションを行ってもらったりなど、利用者の楽しみや活き活きた生活が送れるような支援にも取り組んでいる。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	毎日の着替えの洋服や入浴の準備等は出来るだけ自分で選んでもらっている。YouTubeのテレビ番組はリクエストを聞き、順番に流している。	/	/	◎	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのベースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	介助が必要なご利用者様には1日の流れがあるが、自立されているご利用者様は自由にトイレに行かれています。一人一人の体調や気分によっては食事を早く出したり、遅らせてたりしている。散歩も敷地内は制限なく自由にして頂いている。	/	/	/	
		d	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	毎日の体操・リハビリ・レクリエーションの声掛けにて笑顔がみられる。	/	/	/	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるように支援している。	○	コミュニケーションの中で表情や体調面などから意向をくみ取るようにしている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であかさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、自立たずさげない言葉かけや対応等)	◎	毎月のミーティングでご利用者様一人一人の状況を把握し、ほこりやプライバシーを損ねないように皆で話し合いを行っている。	◎	◎	◎	勉強会の中で、職員は利用者の人権や尊厳などの学ぶとともに、ミーティングを活用して、誇りやプライバシーなどを職員間で話し合い、意識した対応をしている。また、入浴時や衣類の着脱時、排泄介助時など、特に職員は利用者の羞恥心に配慮をしながら、見守りやサポートをしている。さらに、職員は、居室を利用者のプライベートのある空間と認識して、入室時にはノックや声かけをしてから入室するとともに、不在時には換気を兼ねて、許可を得た上で、入り口のドアを開けている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	トイレ誘導の声掛けや介助時のプライバシー等には注意するよう職員間で徹底している	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	居室に入室する時はノックをし、声を掛けてから入室するようにしている。	/	/	○	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	個人情報保護方針に基づき入職時雇用契約書に署名・捺印をしている。すべての職員が理解をしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者にも助けを求めたり教わったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	施設に畑があり、園芸が得意なご利用者様に野菜の育て方等を教えて頂いたり、洗濯物をたたんで頂いたり、食事の準備等のお手伝いをさせて頂くと感謝の言葉を伝えたりしながら良い関係が築けるように努めている。				職員は、利用者同士の関係性や性格を把握して、トラブルが起こらないように、配席などの考慮をしている。中には、大きな声を出して、言い合いなどのトラブルが起こることもあり、職員は早期に利用者同士の間に入って、別の場所へ移動して花を觀賞したり、話しを聞いたりするなどの対応をしている。また、1人で居室で過ごす時間が長くなりすぎないように、職員は利用者一人ひとりの生活リズムに配慮するとともに、孤立しないようにリビングで他の利用者と一緒に過ごす時間を大切に考えた支援にも取り組んでいる。さらに、話し好きの利用者が、他の利用者にも積極的に声をかけて励ましたり、会話を楽しんだりする様子も見られる。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	出来る事はお互いに声を掛け合って共同生活している事を理解して頂いている。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	仲の良いご利用者様同士が過ごせるよう座る位置を考慮している。世話好きなお利用者様にはみんなのコップを配って頂いたり、テーブルを拭いて頂いている。居室にいらっしゃる方にはみんなでカラオケやトランプ等をしようと声を掛け、リビングに出て来て頂き、孤立しないように注意している。				
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者には不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	ご利用者様同士のトラブル時は職員が仲裁に入り解決できている。今まで大きなトラブル等なし				
12	馴染みの人や場所との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	家族との会話の中で 聞き取り把握はしている				
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていたりなど、これまで大切にしていた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	近所の人に会いたいと言われる方もおられ、可能な限りは支援しているが、コロナ禍で面会は制限している。お手紙のやり取り等されている方もいらっしゃる。				
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	散歩や買い物など出来る事は希望に沿うようにしているが、時に職員ペースになる事もある	△	○	○	コロナ禍において、事業所には外出制限が設けられ、以前のような自由な外出はできていない。事業所周辺の自然豊かな環境を活かして、日常的に散歩に出かけたり、庭に出て、綺麗に手入れされた花や家庭菜園を眺めながら外気浴をしたりするなど、利用者が気分転換を図ることができるよう支援している。また、通院支援の際に、ドライブを楽しんだり、感染状況を見計らいながら、空いている店の時間帯に、少人数で買い物に出かけたりするなど、可能な範囲で、利用者や家族の希望に添えるような外出支援が行われている。さらに、車いすの利用者にも、同様の外出支援に取り組んでいる。中には、敷地内にある家庭菜園で、水やりや草引きなどを行い、職員と一緒に野菜づくりを楽しんでいる利用者もいる。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	ご家族様との外出が主で、地域の方やボランティアの方との外出支援は出来ていない。ただ、今はコロナ禍により外出は控えてもらっている。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	ご利用者様個々の状態を把握し、課題が有る時はその都度ミーティングを行っている。				事業所では、利用者一人ひとりのできることやできそうなことを把握して、自分でできることはしてもらい、職員は必要以上に口や手を出さず心にかけた支援に努めている。また、職員は利用者の力を見極めて、食事の際に、始めの何口かを自分で口まで運んでもらうよう見守りしたり、排泄支援時に、自分でズボンを上げてもらったりするなどの生活リハビリにも取り組むとともに、ラジオ体操や散歩などを取り入れて、利用者の心身機能の維持に努めている。定期的に、理学療法士等の訪問があり、歩行訓練や下肢運動などを利用者と一緒にするとともに、マッサージに対応するなど、利用者にも喜ばれている。中には、介護計画の目標やサービス内容に、歩行訓練や下肢運動などのメニューを取り入れて、個別のリハビリに取り組んでいる利用者もいる。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	ご利用者様個々のADLの状態を把握し、出来るだけ身体機能が維持・向上できるように毎日リハビリを行っている。また、作業療法士の指導のもと少しでも残存能力を発揮できるように支援している。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	洗濯物たたみ等、自分の役割と思い、進んでお手伝いして下さるご利用者様には手を出さずに見守りしている。畑仕事やガーデニングが趣味の方には自由に庭に出て収穫等して頂くよう支援している。			○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	普段の会話や家族との会話の中でできる事を見つけるように把握している。				洗濯物干しやたたみ、食器洗い、土筆の袴取り、野菜の皮むき、テーブル拭きなど、職員は利用者にも役割や出番を担ってもらえるよう支援している。洗濯物たたみは利用者の日課にもなっており、洗濯物を取り合って些細なトラブルになることも見られたため、職員は順番に行えるようにしている。また、得意なことや好きなことを役割として行ってもらえるように働きかけ、野菜づくりやカラオケを歌う、カレンダーをめくってもらうなどの役割や出番を担ってもらうとともに、一緒に行うなどの支援にも努めている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごすように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	洗濯たたみやテーブル拭き・買い物など個々に合わせた支援ができるようにしている。出来るだけ好きな事を取り入れるように支援している。	○	◎	○	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	ご家族様やご利用者様の希望を聞き把握できている。家族の希望にて職員と一緒に洋服を買いに行ったりおしゃれを楽しんでいる方もおられる。				起床時に、自分で着る服を選んで着替えるとともに、化粧やマニキュアなどのおしゃれを楽しんでいる利用者もいる。マニキュアを付ける際には、職員と一緒にやっている。また、服の形状などが伝わりやすいように、メモ紙に絵を書くなど、職員は利用者様に伝わりやすいような工夫も行われている。さらに、整容の乱れや汚れが見られた場合には、職員がさりげなく声をかけ、フォローをしている。定期的に、事業所には訪問美容の来訪があり、ベッド上で過ごすことが多い重度の利用者にも、好みを伝えてカットしてもらうことができている。加えて、白髪染めを希望する利用者もおり、家族が持参したカラー剤を使用して、職員が毛染めの支援を行い、利用者に大変喜ばれている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	季節にあった服装など家族と相談しながら持参してもらったり家族と外出しカットに行っているかたもいらっしやる。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	自己決定ができないご利用者様は、職員がご家族様に聞きながら支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	外出時等は少しでもおしゃれが出来るよう声掛けして支援している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくなりカバしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	整容の乱れがある場合はさりげなく声掛けして更衣をしている。	◎	○	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	ご家族様が一緒に同行し、カットに行かれる方もおられるが、ほとんどの方は施設に来てもらってカットしている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	ご家族様と相談しながら、髪型や服装に気をつけている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	口から食べる事の大切さや皆と一緒に食べる楽しさを職員は理解している。				法人の栄養士がバランスの取れた献立を作成し、コロナ禍において、職員のみで食材の買い出しに出かけ、利用者野菜の皮むきや調理の下ごしらえ、食器洗い、後片づけなどを手伝ってもらいながら、職員が調理をしている。事業所の敷地内にある菜園で野菜を収穫した時や、近隣住民から野菜の差し入れをもらった時には、土筆を卵とじにするなど、旬野菜を使用したメニューを1品加えた料理が食卓に上ることもある。毎月、利用者と一緒にたこ焼きづくりをしたり、イベントの際に、ケーキのほか、特別食を用意したりする工夫も行われている。また、入居時等に、職員は利用者一人ひとりの食物アレルギーや苦手な物も把握しており、代替品を用意するなどの対応をしている。食器類は、入居時に使い慣れた物を持参してもらったほか、事業所で用意した使いやすい物を使用している。食事の際に、なるべく職員は一つのテーブルに1人が座り、見守りや介助をしながら、利用者と同じメニューを食べることができる。利用者の状態に応じて、トロミやミキサー食などの食の形態にも対応している。中には、調理の匂いや様子を見ながら、「今日のご飯は、何か」と食事を楽しみにしている利用者もいる。さらに、調理方法や残食などを職員間で話し合うとともに、必要に応じて、法人の栄養士に相談することもできている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	買い物はコロナ禍なので毎回ではないが、ご利用者様に御用がある時には一緒に行っている。調理や片付け等出来る方は一緒に手伝ってもらっている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	調理や片付け等出来る方には一緒に手伝ってもらっている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入所時にアレルギーや食べれないもの・好きな物など聞き把握できている。牛乳が飲めない方には他の物で対応している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって音づかいのものを取り入れている。	◎	旬のものを取入れ、利用者が美味しいと言える献立にしている。好きなものを聞き、取り入れるようにしている。毎年職員がつくを取ってきて、ご利用者様と昔話をしながら一緒にほかまを取って夕食にお出ししている。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	可能な限り普通食での対応をしているが嚥下状態等や体調面でキザミやミキサーになる方もおられるので、少しでも美味しく提供できるように器等の工夫をしている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	入所時、使い慣れた物を持参していただいている。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	一つのテーブルに必ず1人職員が着き、ご利用者と一緒に食事を食べながら、声掛けや介助を行っている。			◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	食事を作っている時に今日は何かなにか楽しみが少しでも増えるように配慮している。	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	法人の栄養士がカロリー計算をしてくれている。施設でも栄養バランスや水分摂取量など確保できるようにしている。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	食事が水分量が少ない利用者には適宜声掛けして少しずつ摂取してもらうように支援している。お茶が嫌いな方には他の飲み物で対応することもある。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	メニューに偏りがあった場合は栄養士に相談したり職員で検討し、いろどりやバランスなど見た目にも心がけている。			◎	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	刃物やまな板等は都度消毒をし、衛生管理を徹底している。勉強会でも全員に周知徹底している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	口腔ケアの重要性は勉強会等で職員全員が周知・理解し、毎食後口腔ケアを行っている。	/	/	/	職員は勉強会等で学び、口腔ケアの重要性を理解している。毎食後、職員は声をかけて、利用者は口腔ケアを実施している。自分で歯磨きができる利用者を含めて、職員は全ての利用者に、磨き残しや異常などの口腔内の様子を確認するとともに、必要に応じて、見守りや仕上げ磨きなどのサポートをしている。また、月1回歯科医の往診を受けている利用者もあり、「口腔衛生管理にかかわる助言内容」の様式を記載して提出してもらうなど、職員は口腔ケアの指示やアドバイスをもらうとともに、支援方法の確認をするなど、適切な支援に繋がっている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	口腔ケアの介助時異常がないか 観察をしている。	/	/	◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	毎月1回歯科医師が来て口腔衛生管理にかかわる助言・指導を行っている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	食後は義歯を外し、洗浄している。夕食後は入れ歯をお預かりして洗浄しポリドントで消毒を行っている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	◎	食後に磨くということを習慣にし、歯磨きができる方にはご自分でしてもらっている。その後磨き残しがないか確認し、あれば介助を行っている。	/	/	◎	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	出来るだけ 排泄の自立を目標にしている。布パンツで対応できる方には布パンツで対応している。	/	/	/	事業所では、利用者がトイレで排泄できるよう支援している。職員は利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、こまめな声かけやトイレ誘導をしている。また、トイレの入り口には、カーテンが掛けられ、プライバシーに配慮した支援も行われている。さらに、利用者の重度化に伴い、ベッド上で過ごすことが多く、立位を取ることが困難な場合には、おむつを使用して、ベッド上等での排泄支援をしている。中には、利用者の状態に合わせて、夜間にポータブルトイレを使用するとともに、夜間のみおむつを使用している利用者もいる。加えて、利用者の排泄状況に応じて、紙パンツやパッドの大きさなどの適性を職員間で話し合うとともに、家族等に確認の上で使用している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	便秘が及ぼす影響について把握できている。新人職員には都度説明している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄の習慣やパターンを把握し、本人の生活リズムに沿った声掛け・誘導などを行い、排泄表に記入している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	寝たきりの方もいらっしゃるが、基本トイレでの排泄で支援している。オムツ等は個々にあったものを職員間で話し合い、本人にとってどれが一番よいか決めている。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	認知症の事を理解し、職員間でオムツ使用の必要性を理解し、少しでも改善できることはないか検討をしている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	排泄表を確認し、時間があいているご利用者様には声掛けし、誘導をしている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	オムツ使用時は家族に相談し、少しでも快適なものを選択できるよう支援している。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	個々に合わせてオムツやパッドを検討し、使い分けている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	日々の運動や水分量にて自然排便を促すようにしている。出来るだけ下剤を使用しないよう野菜を増やしたり、センナ茶等も取り入れている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	△	職員の配置等で曜日・時間の設定はせざるを得ない。できる限り本人の希望を確認し、入浴出来るよう支援しているが、体調面などを考慮して希望に添えない時もある	◎	/	○	利用者は、午前中の時間帯を活用して、週2回入浴できるよう支援している。夏場には、週3回の入浴支援をしている。1階はリフト浴が設置され、利用者の身体状況に合わせて、職員は使い分けをしながら、安心安全に入浴できるよう支援に努めている。また、浴室の入り口には、「ゆ」の暖簾が掛けられ、温泉気分を味わいながら、利用者の希望に応じて、湯の温度や湯船に浸かる長さ、入浴剤の有無に対応するなど、利用者のペースに合わせて、ゆったりとした楽しみのある入浴支援にも取り組んでいる。さらに、入浴を拒む利用者には、無理強いすることなく、職員が日にちや時間帯を変えて声かけするなどの工夫を行い、入浴してもらうことができている。加えて、重度の利用者や湯船に浸かることを嫌う利用者には、シャワー浴や足浴の対応をすることもできる。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	できる限りゆっくり入浴できるように支援している。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	個々の能力に合わせて一般浴やリフト浴など支援している。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	◎	入浴拒否の方にも出来るだけ気持ちよく入れるよう、無理強いせず時間をおいて支援している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	バイタル測定し、体調面や表情から健康状態を判断し、入浴が可能か確認している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	日中の活動状況や毎日の睡眠状況を朝の申し送り等で把握している。	/	/	/	事業所には、入居前から継続して睡眠導入剤を服用している利用者があるものの、主治医に利用者の状態を報告して相談をしながら、減薬に努めるとともに、安易に服薬に頼らないよう取り組んでいる。また、日中の過ごし方を工夫したり、散歩などの外気浴を取り入れたリ、ケア方法を検討するなど、職員は夜間に利用者が良眠できるよう努めている。また、夜間に眠れない日が続く場合には、利用者の体調面を考えて、医師に相談して、服薬に繋がることもある。中には、20時頃まで、眠れない利用者の話を聞いてくれる他の利用者もいる。さらに、100歳を超える高齢の利用者もおり、体位変換などのため、エアマットを使用している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	昼夜逆転しないよう、なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えている。	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	医師とご利用者様の状態を観察・話し合い、出来るだけ薬を減らせるように支援している。昼夜逆転しないよう日中リハビリや散歩・レクレーション等声掛けし日中過ごしていただいている。ほとんどのの方が安定剤なく良眠できている。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	昼食後には居室でゆっくり休めるよう支援している。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	◎	電話がかかってきたら取次ぎし、遠方にいるご兄弟に手紙を書いたりしているご利用者様は、お手紙を預かりポストに投函している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	入所時に説明しており、ご希望には出来る限り対応できるようにしている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	希望のある方は個々に対応している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	届いた手紙等はご本人様へ手渡している。返事を書かれる方もおられる。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	入所時にご本人・ご家族に説明しており、いつでも連絡が取れるよう支援している。連絡事項にてお電話をした場合、ご本人・ご家族様のご希望があれば代わってお話をさせて頂いている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	ご利用者様にはご家族様の了解のもと、お小遣いとして少額を預かっており、買い物・病院等に行き預かっている小遣いからご自分で支払う方もおられる。	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	◎	衣類・お菓子等、ほぼご家族様が買ってくるが多いが、買いたいものがある場合は一緒に行き可能な限り支援している。	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」など一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	認知症施設の為、お金を渡すと何処にしまったか分からなくなったりされるので、ご家族様と相談しお小遣いの管理は各ユニットのチーフと施設長で管理をし、毎月使った金額をご家族に報告している。ほとんどのご利用者様が自分でもっている方はいないが、買い物をする時にお金をお渡し、お支払いしていただく等支援おを行っている。	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	必要なものはご家族様と相談しながら支援している。	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	金銭管理規定に基づき管理している。月1回領収書と明細を家族に渡しサインをもらっている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	入所時にご本人様・ご家族と話し合い、出来る限りニーズに合わせて対応している。	◎	/	○	コロナ禍において、事業所には外泊や外出などの制限が設けられており、利用者や家族から出された希望や要望には、職員間で検討し、可能な範囲で柔軟な対応に努めている。
<b>(3) 生活環境づくり</b>									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	玄関はいつも開放しており地域の方や家族がいつ来てもよいようにしている。	◎	◎	◎	玄関先には、手入れされた鉢植えにパンジーなどの花が植えられているほか、敷地内にある庭の花壇や菜園などの環境整備が行われている。馴染みの地域住民が、玄関先に野菜の差し入れを持ってきたり、事業所で使用する古新聞を置いてくれたりするなど、気軽に立ち寄ってもらうこともできている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を感じており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	◎	各ユニットごとにご利用者の状態に応じてソファの位置などを変えたり、季節に応じた飾りつけをご利用者様と一緒に作り、楽しみながら飾りつけを行っている。	◎	○	○	企業の元保養所を改装した事業所は、1階と2階のユニットで、食堂やリビングの構造に差異があるものの、利用者が過ごしやすいように、ソファや家具を配置するなどの工夫が行われている。大きなガラス窓がある共用空間は、採光が入り明るく、清掃や換気が行き届き、快適な空間となっている。また、窓から外の山々や畑の風景を眺められるほか、訪問調査月の12月には、共用空間にクリスマスツリーの飾りや装飾が行われ、利用者や来訪者は、季節を感じる事ができる。さらに、建物が建てられてから長年が経過しているが、職員が壁紙を貼り直すなどの細やかな補修や手入れが行われている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎日清掃を行い、衛生管理を徹底している。トイレ汚染時等速やかに掃除・消毒・消臭をしてご利用者様ご家族様が快適に過ごせるようにしている。			○	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	季節の生け花を飾ったり、季節感が出るような飾りを飾って支援している。			○	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	気の合う仲間同士で過ごせるようにリビングを配置し、玄関や庭にも椅子を置いて自由に過ごしてもらっている。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	家族や本人の希望があれば使い慣れたものを持ってきてもらっている。	◎		◎	居室には、ベッドとタンスが備え付けられている。利用者は、馴染みの家具や使い慣れたテレビなどを持ち込むことができ、配置を考えながら、職員は居心地の良い空間となるよう支援している。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	トイレ表示をしたり、手すりの設置をし、廊下をスムーズに移動できるよう配慮をしている。				◎ 建物内のトイレや各居室には表示が付けられているほか、浴室の入り口には暖簾をかけるなど、利用者が混乱しないよう工夫されている。建物は、元保養所の構造の名残があり、2階の廊下には砂利敷きのスペースが設置され、利用者がゴミ捨て場と間違えてゴミを出すことも見られるため、動物の置き物や飾り付けを行う工夫を行い、きれいに保たれるようになっている。さらに、事業所には新聞が配達され、順番に手に取って読んでいる利用者もいる。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞は毎日読めるようリビングに置いている。ご利用者様の居室には好きなものを置いて頂いている。危険なもの等は家族と相談しながら支援している。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていること、異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけることも済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	◎	日中は玄関・門も開けており、いつでも気軽に来て頂けるようにしている。	◎	◎	◎	職員は勉強会等の中で、鍵をかけることの弊害を理解しており、日中に玄関や門扉の施錠は行われていない。夜間は防犯のため、玄関等の施錠をしている。また、利用者の安全面を考えて、2階の階段部分のみ、転倒防止のため施錠をしている。また、2階からエレベーターを使用して、1階に降りることは可能となっている。利用者自身でエレベーターを操作して昇降し、自由に屋外に出て、庭を散歩する利用者もおり、職員は見守りや声かけをしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	入所時に説明している。現在施錠を希望する家族はいない。				
<b>(4) 健康を維持するための支援</b>									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	入所時サマリーや家族からの聞き取りにて把握し、全職員に周知徹底している。もし個々の飲み薬がわからない時にはすぐに確認ができるようご利用者様全員のお薬の説明書ファイルを1か所に置き確認できるようにしている。尚、お薬が変わるたびに説明書も更新している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	毎日バイタル測定をし、朝のミーティングで身体状況の変化を申し送りし、夜間の状態も日勤が周知できるようにしている。出来る限り同じ職員を同じユニットに配置し、ご利用者様の身体変化にいち早く気が付けるようにし、早期発見に努めている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	勤務年数の長い職員が多い為、ご利用者様の状態変化に気づくことが出来、重度化の防止や適切な入院が出来ている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	ご希望される方はかかりつけ医に受診されている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	医療機関と連携を取り、定期検診や相談、受診などを行い、必要があれば専門医に紹介をお願いしている。希望のかかりつけ医がいる場合は、現状がわかるように情報を提供し、受診できるよう支援している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	医師と連携を取りながら、受診結果の報告、必要に応じて家族に相談しながら行っている。				



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院の際には地域連携室と定期的に面会や電話連絡をし、連携をとっている。	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	地域連携室と定期的に面会や電話連絡をし、早期退院ができるように情報交換し支援できている。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	常時看護師がいるようシフトを組み、ご利用者様に状態の変化がみられた時には協力医療機関に報告・相談をし、医師の指示のもと必要な医療行為を行っている。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	緊急時等もすぐに対応できる体制ができています。職員に看護師がいる為、早期の対応ができています。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできる体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	日々のバイタルチェックや週1回の体重測定など健康管理をしながら、日ごとの状態の把握に努める事で異常の早期発見につなげている。勉強会で緊急時の対応なども定期的に行っている。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	服薬ファイルを作成し、二重チェック・飲み忘れ・誤薬を防ぐように心がけている。職員一人ひとりが理解している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	配薬、確認を別の職員がするようにしている。職員はご利用者様の薬をファイルにて確認するよう徹底している。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を定期的に行っている。	◎	薬に変更があった場合は常にご利用者様の状態変化がないか確認し、状態変化があった場合には、他院の場合でも協力医療機関に報告し、確認を定期的に行っている。	/	/	/	
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	重度化した場合や終末期の在り方について、入居時に説明・同意を得ている。状態変化の段階ごとにご本人様・ご家族様・医師と連携をとり意向を確認して方針を決めている。	/	/	/	法人・事業所として、「利用者に対する健康管理について」「看取りに関する指針」が整備され、入居時に、管理者等は家族等に、対応可能なことなどの説明を行い、意向を確認している。また、状態の変化や重度化が見られた場合には、利用者や家族に意向を確認するとともに、医師や看護師、職員を交えて話し合い、方針を共有している。入居の期間が長くなると、最期まで事業所での看取り介護を希望する利用者や家族もおり、事業所に看護師が配置されているほか、母体医院の医師と24時間体制での連携が図られ、チーム体制で看取り支援が行われている。今までに、事業所では多くの看取り支援を経験しており、職員には、終末期対応などの勉強会が行われ、職員の不安軽減やスキルアップに繋げている。さらに、看取り支援時には、母体医院の医師がモニターを使用して、取り付けたカメラでバイタルなどの利用者の様子を診るなど、いつでも確認できる体制も整備され、利用者や家族、職員の安心感にも繋がっている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	重度化・終末期の在り方について、ご本人様・ご家族様・協力医療機関の医師と連携を取り方針を共有している。	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	終末期の対応について職員の勉強会の実施を行い、不安軽減やスキル向上に努めている。状態に応じて話し合い、ながら支援している。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	できること・できないこと・対応方針についてご家族様に十分な説明を行い、理解を得ている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	ご本人様・ご家族様・主治医・介護職員・看護師を含め、連携をとりチームで支援できる体制を整えている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	ご家族様への説明を十分に行ない理解をしてもらっている。遠方のご家族様にも不安にならないように適宜連絡をとれるようにしている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	感染対策委員会を設置し、感染症について定期的に勉強会をし予防・対策を行っている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	感染症のマニュアルを作成しており、定期的な勉強会を行っている。新人職員にはその都度説明をし、全員が対応できるように指導している。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	◎	市役所のホームページで地域の発生状況など確認し、感染予防や対策等の最新情報を取り入れ対応している。	/	/	/	
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	ご利用者様はもちろん職員も手洗い・うがいの徹底をしている。ご来訪者様にも玄関にて体温測定・手のアルコール消毒をさせていただいている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
<b>II. 家族との支え合い</b>										
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	毎月ご家族様にお便りを送り、近況報告を行っている。面会に来られた時にも状態の説明をしている。				コロナ禍以前は、行事の際に、家族の参加を呼びかけていたものの、働いている家族が多く、参加協力は難しい状況となっていた。コロナ禍において、面会や外出制限が設けられ、家族への行事案内は自粛しており、現在は、ガラス越しや2階の窓からの顔を見るなどの面会に留まっている。家族の気になることや不安などがあれば、気軽に管理者等に電話連絡してもらえよう伝えている。また、前回の目標達成計画に掲げて、毎月、事業所の行事や利用者の日常の様子分かるように、アトラス奥道後便りを活用して、新たに職員の入職などを写真入りで伝えるとともに、家族から出された意見を反映して、新入職員もいることから、職員全員の顔写真入りの紹介チラシを全ての家族に配布している。利用者家族等アンケート結果から、職員の入退職などの異動を含めた事業所の出来事などが十分に家族に伝わっていないことが窺えるため、担当職員の交代を家族に報告したり、運営推進会議や来訪時を活用して、職員の入退職や異動を報告したりするなど、家族にアンケート記載の意図や意見を確認するとともに、周知方法を職員間で検討することを期待したい。	
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	△	ご家族様もお仕事をされている方が多くまた、コロナ禍の為、面会制限を行っているのなかなか現状は難しい。今後どのようにしたらよいか検討が必要	x		△		
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たよりの」発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	ご家族様が知りたいことや不安に感じている事等があればいつでも電話連絡して頂きその都度対応を行っている。ご利用者様のご様子や行事等は毎月お便りを送りご報告をするようにしている。	◎		◎		
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	今後起こりえる認知症の悪化や状態を説明しながら適切にかかわり続けてもらえるよう理解してもらっている。					
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	事業所の運営上の事柄や出来事についてはその都度お手紙にて報告を行っている。また、運営推進会議や面会時にも報告をしご理解して頂いている。		x			○
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎	今後起こりえるリスクについて面会時やケアプランにてご説明を行っている。					
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	ご家族様の面会時にはできるだけ状態報告を行い、ご意見やご希望を伺い、気軽に相談して頂けるよう対応している。					○
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	契約時に十分説明をして理解・納得を得るとともに何かあればいつでも相談できるよう掛けている。					
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	契約時に十分説明をして理解・納得していただいている。退去の希望がある場合は十分な説明をし、希望先にスムーズに移れるように支援している。					
<b>III. 地域との支え合い</b>										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議に参加してもらったり、地域行事への参加等で事業所を知ってもらい理解を図っている。		◎		コロナ禍以前は、中学生の職場体験を受け入れたり、近隣の幼稚園児や小学生と交流をしたり、地域の秋祭りなどの行事に参加するなど、地域住民と交流を図ることができていた。また、利用者と一緒に、系列法人のデイサービスに出かけ、カラオケを歌うなどの交流を図ることもできていた。さらに、地域の防災訓練にも参加協力することができていた。コロナ禍において、地域の行事や子供との交流が中止され、交流できる機会が減少しているものの、これまでに培ってきた地域との繋がりを継続して、地域住民とあいさつや会話を交わしたり、近隣住民から野菜の差し入れをもらったりするなどの交流は行われている。加えて、落ち葉の多い時期には、地域住民と協力をしながら、道路周辺の片づけにも協力をしている。事業所の存在は地域に浸透しており、管理者は、「今後も気軽に地域住民に立ち寄ってもらえる場所でありたい」と考えている。	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	町内会に入り地域行事に参加したり、自主防災会に所属し地域の防災訓練にも参加している。運営推進会議や地方祭等を通じ地域の方との輪が広がっている。地元の小学生・中学生の交流も毎年増えている。		○	◎		
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	顔なじみの関係が少しずつ増えている。					
		d	地域の方が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	地域の方々声が掛け合い、古新聞を集めて持ってきてくださっている。今後もっと気軽に立ち寄れる施設を目指したい。					
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	回覧板をもって行ったり散歩時に挨拶をし声掛けを行っている。					
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	地域の方に七夕等の笹をもらったり、地域行事に参加することで近隣の住民と少しずつ広がりが増えている。ボランティアは今のところいない。					
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	地域の小学生のふれあい集会・中学生の職場体験・福祉授業等で協力を得たりまた、駐在所や近郊福祉施設の方に運営推進会議に参加してもらい関係を築いている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人の参加がある。	△	地域の区長さんや民生委員さん・駐在所の方など地域の方・ご利用者様・ご家族様にも参加していただいている。しかし、ここ2・3年はコロナ禍の影響で参加していただくことができず、議事録を地域の方々に持って行き情報収集等を行っている。	×	/	△	運営推進会議には、利用者や家族のほか、地域の区長や駐在所の警察官、民生委員、他のグループホームの職員、市担当者、地域包括支援センターなどの多くの参加協力を得て開催することができていた。コロナ禍において、現在は書面開催となっており、職員間で話し合った会議の議事録を、会議の参加メンバーに毎回配布して報告をしている。事前に、議題などの意見や助言を参加メンバーに出してもらうなど、書面会議においても、相互に意見交換を行いながら、有意義な会議となることを期待される。また、全ての家族に、簡潔にまとめた会議報告が行われることを期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実態、評価への取り組み状況（自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等）について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	○	外部評価の結果が届いた時は運営推進会議にて報告するようにしている。コロナの影響で開催できなくても議事録は地域の方々へ持って行き公表を行っている。	/	◎	◎	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	地域の方の意見を聞き偶数月の第2月曜日になっている。今後テーマに合わせてメンバーの参加も検討したい	/	/	◎	
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	理念は開設当初からあり、変更はしていない。新人研修を行い、理念について共通認識を持ち地域密着型の意義を職員全員が理解している。	/	/	/	/
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	施設内で見やすい所に理念を掲げている	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	個々に適した勉強会への参加や講習会への呼びかけを行っている。研修報告書は全員が読めるようにしている。	/	/	/	/
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	個々にあった研修に参加できるよう検討している。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	能力向上を目指し、研修を受けたり、資格が取れるよう便宜を図っている。常勤・パートの人材確保により、勤務状態を確保している。福利厚生も充実しており職員がやりがいをもって働いている。長く勤務している職員が多い。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	包括支援センターを通じ、地域の同業者と互いに意見交流を持ちサービスの向上につなげている。運営推進会議に参加していただいたり、納涼祭に参加したりと交流を図っている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	◎	ストレス軽減のために定期的に女子会や海でバーベキューをしたり、忘年会・社員旅行などを通してリフレッシュできる取り組みができています。	○	◎	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	◎	高齢者虐待防止法について常に勉強会で話し合っている。具体的にどのような行為なのか職員は理解できている。	/	/	◎	定期的に、事業所では虐待や不適切ケアの防止などの勉強会を実施するとともに、年4回虐待防止委員会等を開催し、職員間で話し合いをしている。また、職員は日々のケアの振り返りや考える機会を設けるとともに、ミーティング等を活用して、話し合いが行われている。また、大きな声や馴れ馴れしい言葉づかいが見られた場合には、職員同士で注意し合うほか、管理者やチーフに伝えて、該当職員に指導や注意喚起をしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	日々のケアについて勉強会で話し合いをしている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員の体調面なども考慮し、できるだけストレスがないように普段の声掛けにも注意している。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	身体拘束をしないことを職員が徹底理解している。緊急性のある場合を考え、どんなことがあるか、マニュアルがあり理解している。	/	/	/	/
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	身体拘束についてミーティングで話し合っている。身体拘束適正化の委員会を立ち上げている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	現在は家族からの施設への希望はない。できるだけ自由な暮らしを支援している。現在は身体拘束はない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	○	勉強会のテーマとしており、職員が理解できるよう取り組んでいる。成年後見制度を利用している方もおられる。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	包括支援センターや他の機関との連携を築いている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	緊急時の対応マニュアルがあり勉強会などで基礎知識や救急処置法を学んでいる。定期的な勉強会も行っている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	◎	定期的に応急手当の方法など人形を使い研修を行っている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットをノートに書き勉強会で検討し、職員間で再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	ご利用者様ひとりひとりの状態から考えられるリスクや危険等をを検討し、事故防止につなげている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	◎	苦情対応マニュアルがあり、苦情があった時には報告書に記入している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	苦情があった場合はマニュアルに沿って対応している。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	苦情が寄せられた場合は事実確認を、的確に速やかに対応するように心がけている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	入所時にご本人様・ご家族様に説明をしている。面会時に管理者や職員に伝える事が多い。	◎		◎	電話連絡時や来訪時を活用して、職員は家族に利用者の様子を伝え、意見や要望を聞くとともに、出された意見には可能な限り対応をしている。また、家族には苦情や相談の窓口を説明している。さらに、職員は利用者から、夜勤時や更衣時などの機会を活用して、意見や要望を聞くとともに、表情やしぐさから思いをくみ取るよう努め、対応をしている。加えて、管理者は夜勤の業務にも携わっており、職員との話しやすい関係も築かれ、日常的により良い支援方法などを話し合い、サービスの質の向上に繋げている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	苦情や相談ができる公的な窓口があることは契約当初に説明は行っている。苦情がある時は管理者に24時間連絡がとれるよう連絡先を伝えている。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	何かあれば常に報告できる体制になっており、必要な時は来ていただいている。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	毎月勉強会で職員の意見を聞いている。都度話し合いもできている。			◎	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年1回職員全員で自己評価に取り組んでいる。				外部評価の自己評価は、職員全員で取り組むとともに、管理者やチーフを中心に取りまとめで作成をしている。また、ミーティングなどを活用して、サービスの評価結果を職員に報告するとともに、目標達成に向けて取り組んでいる。さらに、運営推進会議を活用して、参加メンバーに評価結果や目標達成計画を伝え、家族にも送付して報告をしている。利用者家族等アンケート結果から、家族にサービス評価の取組みが十分に理解されていないことが窺えるため、コロナ禍の収束後には、運営推進会議等を活用して、サービス評価の意義や目的を伝えたり、参加メンバーや家族に取組み状況のモニターの協力を呼びかけて、意見をもらったりするなど、周知方法を職員間で検討することを期待したい。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	可能な限り実現に向けて取り組んでいる。途中でたどりつかない事もあるが職員間で検討し実現できるよう努力している。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議やお便り等で報告するようにしている。	×	○	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	災害マニュアルもあり、毎年災害の実地指導を受けている。職員は周知徹底している。	/	/	/	法人・事業所として、災害マニュアルを整備するとともに、年2回様々な場面や災害を想定した避難訓練を実施している。訓練では、地域の避難所に指定されている公民館まで、実際に利用者と一緒歩いて避難するなどの経験もしている。コロナ禍以前は、地域の防災訓練に参加協力することもできていた。また、事業所として、地域の区長や民生委員に火災などの緊急時の連絡先をお願いするなど、協力支援体制を構築している。さらに、近隣には、土砂崩れが起りやすい場所があり、管理者等は、「万が一、避難が必要な時には、事業所の建物に避難できること」を地域住民に伝えている。利用者家族等アンケート結果から、災害への備えに対して、家族の十分な理解が得られていないことが窺えるため、事業所便りを活用して、避難訓練の様子を伝えたり、コロナ禍の収束後には、避難訓練の様子を写真で事業所内に掲載したり、家族や運営推進会議の参加メンバーに避難訓練への参加協力を呼びかけるなど、家族等への安心安全な取組みが理解してもらえるように、周知方法を職員間で検討することを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	マニュアルに沿って実際に避難経路を通りどりのくらいかかるかなど実際に訓練をしている。	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	消防設備や避難経路・物品など定期的な点検をしている。	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	地域の防災訓練に参加したり、消防と連携をとり、協力・支援体制を確保している。	×	○	○	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	◎	地域の防災訓練に参加したり、消防と連携をとり、協力・支援体制を確保している。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	職員が研修を受けたりした内容は運営推進会議で紹介したり、地域の行事に参加することで利用者や接することもありより理解を深めている。	/	/	/	事業所として、地域の高齢者や家族から相談が寄せられた場合には、適切に対応をしている。コロナ禍以前は、中学生の職場体験の受け入れに協力するとともに、地域の幼稚園児などの訪問があり、積極的に交流を図ることもできていた。コロナ禍において、市行政や地域包括支援センターが主催する会議や研修に参加する機会は減少しているものの、法人内外の他のグループホーム等と協力をしながら、連携を図ることはできている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	地域の方が来られたときに相談等をし、必要な場合は対応できる体制を作っている。	/	×	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	地域の方がいつでも気軽に来られる場所に出来るよう努力していきたい。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	中学生の職場体験や福祉の授業で受け入れを行っている。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	包括支援センターや他の施設との連携を密にし、地域のイベント等にも参加している。	/	/	○	

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

#### II.家族との支え合い

#### III.地域との支え合い

#### IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 4年 12月 14日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 10名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	3名	

※事業所記入

事業所番号	3870104068
事業所名	アトラス奥道後
(ユニット名)	Bユニット
記入者(管理者)	
氏名	笹田 真由美
自己評価作成日	令和 4年 11月 16日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】 笑顔のたえない場所にしよう 自分らしくいられる場所にしよう 会話の多い場所にしよう</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ・前回のアンケート結果で、管理者や職員等の異動・入・退職などの報告がありますか？の質問でほとんどのご家族様がご存じなかったため、新人が入った時には顔写真の入った職員紹介をお送りし皆様にご存知頂くよう努めた。 ・ご利用者様が生き生きと楽しく過ごしていただけるよう職員とアイデアを出し合い、YouTubeが観れるようにして好きな番組を順番にリクエストしてもらっている。 ・防災面も避難訓練等を行い、どのようにしたらスムーズに避難できるか納得がいくまで話し合い意識向上に努めた。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 企業の元保養所を改装した2階建ての事業所は、市中心部から少し離れた自然豊かな場所に立地している。母体法人は市内にある医療機関で、リハビリ器具を使用した歩行訓練や下肢筋力などのリハビリを実施するほか、日常の中でできる生活リハビリを介護計画の中に取り入れ、利用者一人ひとりの心身機能の維持や向上に向けて取り組んでいる。事業所には看護師が配置され、主治医と24時間体制の連携を図りながら、利用者や家族の希望に沿った看取り支援を実施するとともに、医師が終末期の利用者の様子をモニターで診ることのできる体制も整備され、利用者や家族、職員の安心感にも繋がっている。また、法人・事業所として、職員の福利厚生や待遇面も充実しており、良好な職員同士の関係が築かれるなど、安心して働くことのできる職場環境が整えられ、長年勤務する職員も多い。さらに、多くの職員が介護福祉士の資格を取得しており、スキルアップできるような支援体制も整えられている。コロナ禍において、地域行事の参加や幼稚園児等の訪問できる機会は中止されているが、これまで培ってきた地域との繋がりを継続し、近隣住民と挨拶や会話を交わしたり、野菜などの差し入れを持ってきてくれたり、気軽に事業所に立ち寄る近隣住民がいるなど、交流を図ることもできている。加えて、自然豊かな事業所周辺の環境を活かして、日常的に散歩に出かけたり、庭で外気浴をしたり、感染状況を見計らいながら、買い物やドライブに出かけるなど、少しでも気分転換を図ることができるよう支援が行われ、利用者は穏やかな生活を送ることができている。</p>
--	--	---

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I. その人らしい暮らしを支える</b>									
<b>(1) ケアマネジメント</b>									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	日々の声掛けや見守り中、ご家族様との話し合いの中で思いや暮らしの希望、意向の把握に努めている。1日の過ごし方を通じ、意向をくみ取ることができる。	◎	/	◎	入居前に、管理者等は利用者や家族から、思いや暮らし方の希望などの聞き取りをしている。日々の会話の中で、利用者から新たな情報を聞くとともに、意思疎通の難しい利用者には、表情や様子から思いをくみ取るよう努めている。また、把握した情報は記録に残すとともに、申し送りやミーティングなどの機会を活用して、職員間で情報を共有している。
b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	1日のご本人様の行動・言動に気を配り、話を傾聴する時間を持つようになっている。	/	/	/			
c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	コロナ禍、面会制限をしている中ではあるが、ご家族様が面会や用事があてられた時は出来るだけ会話をする時間を持つようになっている。	/	/	/			
d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	3カ月に1回アセスメントをし、担当者会議にて職員全員で検討し共有している。	/	/	/			
e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	日々の会話の中から意向や思いを感じ取り、カンファレンス等で職員全員が共有できるようにして意見交換している。	/	/	/			
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	入居時にご本人様やご家族様から生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境等をしっかりとお話を聞き、職員間で把握するよう努めている。	/	/	△	入居前に、管理者等は利用者や家族から、生活歴や馴染みの暮らし方、大切にしてきたこと、こだわりなどの情報を聞くよう努めている。以前利用していた介護サービス事業所の関係者や介護支援専門員から情報を聞いたり、病院や施設等からサマリーなどの提供を受けることもある。また、把握した情報は、アセスメントシート等を活用して、職員間の情報共有に努めているものの、中には、意思疎通の難しい利用者もあり、利用者一人ひとりのシートの記録に、情報量の差が見られるため、新しい職員が見ても分かりやすいように、様式を統一して情報を整理するなど、利用者の人物像が見えてくるような記録が残されることを期待したい。
b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	ご利用者様が出来る事は役割をもってもらえるように支援している。職員間で、ご利用者様のでき・できそうなことは何かを日々の生活で把握し、申し送りしている。	/	/	/			
c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	◎	日々の記録に記入し、状態変化などを把握し、パソコンや朝の申し送り等で情報を共有している。	/	/	/			
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	介護保険更新時の訪問調査には可能な限り家族様には同席しをお願いしており、ご本人様・ご家族様の意見を聞き介護計画の見直しを行っている。来られない家族様には電話で意見を聞くようにしている。	/	/	○	把握した情報をもとに、利用者本人の目線に立ち、職員間で何を求めている、何が必要なのかを検討している。コロナ禍において、面会制限が設けられ、担当者会議に家族が参加することができず、事前に電話連絡時や来訪時を活用して、意見や要望などの聞き取りをした記録を残すことができている。
b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	◎	担当者会議にて職員全員でご利用者様の課題を検討し、話し合いをした内容を元に見直しをしている。	/	/	/			
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	ご本人様の意見を聞きながら、月1回担当者間でカンファレンスを行い検討している。	/	/	/	把握したアセスメント情報や聞き取った意見をもとに、担当者会議の中で話し合い、計画作成担当者が、利用者や家族の意見のほか、主治医や関係者、職員の意見を反映した介護計画を作成している。また、計画のサービス内容には、歩行器での廊下往復や下肢の筋力運動などが明記され、日常の中でできる生活リハビリのメニューを取り入れることもできている。
b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	コロナ禍の面会には制限しているが、用事や面会時には出来るだけご家族様と話をし、意見を聞いている。遠方の方には電話で話をしている。	○	/	/			
c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	ご家族様等から情報を聞き、慣れ親しんだことを取り入れるようにしている。	/	/	/			
d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	地方祭は地域の方々や御神輿や獅子舞を披露して頂いたり、奉納祭等ご利用者様が参加できる行事は地域の方々や連携を取り行っている。	/	/	/			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	介護計画の内容を職員間で把握できるよう、いつでも確認できる見やすいところに置いている	/	/	◎	介護計画は、担当者会議の中で話し合いが行われ、職員間で内容の把握に努めるとともに、職員がすぐ確認できる場所に、個別のファイル等を置き、確認できるようになっている。また、利用者毎のサービス計画チェック表の様式には、上の部分に短期目標とサービス内容が転記され、計画に沿ったサービス内容の実施の有無などを記載できるよう工夫されている。	
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	サービス計画チェック表を記入し、その結果どうだったか担当者が記録し、毎月1回のミーティングで話し合い、日々の支援につなげている	/	/	◎		
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	3か月ごとに見直しを行っている。入院・退院した場合や状態が変化した場合に直ちに見直しを行っている。	/	/	◎	3か月に1回アセスメントと担当者会議を実施し、介護計画の見直しをしている。サービス計画チェック表をもとに、毎月実施するミーティングの中で話し合い、利用者一人ひとりの現状を確認している。また、利用者の心身状態に変化があった場合には、随時見直しや検討を行い、現状にあった介護計画を作成している。	
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月モニタリングを担当者と話し合いプランの見直しを行っている。	/	/	◎		
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	状態の変化が生じた場合はその都度家族等と話し、プランの見直しを行っている。	/	/	◎		
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	毎月ミーティングをし緊急案件の場合はその都度話し合いをしている。	/	/	◎	毎月実施するミーティングを活用して、利用者の現状確認や担当者会議を実施するほか、職員間で話し合いをしている。職員が会議に参加しやすいように、毎月の開催日時を固定する工夫をしている。また、1階と2階の両ユニットが合同のミーティングを実施することで、双方の利用者などの情報共有を図ることができている。さらに、緊急案件のある場合には、その日に出勤している職員で迅速な話し合いをしている。加えて、話し合われた内容は議事録を作成して確認してもらうとともに、参加できない職員には口頭での伝達も行われている。	
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	会議は二人ペアで担当を決め 全員が意見交換できるようにしている	/	/	◎		
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	◎	出来るだけ職員全員が参加できるように担当者が日程を早めに決め、司会・書記等を行っている。出席出来なかった職員にも議事録を閲覧するように徹底している。	/	/	◎		
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	申し送りをP・Cを使い出来るだけ細かく入力している。伝達事項も入力し、重要なこととご利用者様の様子等は、毎朝ミーティングで口頭でも伝えるようにしている。	◎	/	◎	日々、夜間帯から朝の申し送りは両ユニットが合同で行い、職員間で情報共有をしている。また、勤務に入る前に、職員は必ずパソコンを活用して、休日分まで遡って申し送り事項の確認を行い、職員間で情報の伝達漏れがないように努めている。	
<b>(2) 日々の支援</b>										
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	希望はなるべく開くようにはしているが、毎回は不可能なこともある	/	/	/	日々の着る洋服を自分で選んでもらったり、散歩やカラオケなどのその日にやりたいことを決めてもらったり、見たいテレビ番組を選ぶなど、職員は利用者になら声をかけて、自己決定してもらえよう支援している。畑の世話が好きな利用者には、一緒に水やりや草引きなどを手伝ってもらったりもする。また、職員は利用者一人ひとりの得意なことや好きなこと、やりたいことを把握して、ぬり絵やカラオケなどのレクリエーションを行ってもらったりなど、利用者の楽しみや活きた生活が送れるような支援にも取り組んでいる。	
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくる。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	毎日の着替えの洋服や入浴の準備等は出来るだけ自分で選んでもらっている。YouTubeのテレビ番組はリクエストを聞き、順番に流している。	/	/	◎		
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのベースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	介助が必要なご利用者様には1日の流れがあるが、自立されているご利用者様は自由にトイレに行かれています。一人一人の体調や気分によっては食事を早く出したり、遅らせてたりしている。散歩も敷地内は制限なく自由にして頂いている。	/	/	/		
		d	利用者の活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	毎日の体操・リハビリ・レクリエーションの声掛けにて笑顔がみられる。	/	/	/		○
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	コミュニケーションの中で表情や体調などから意向をくみ取るようにしている。	/	/	/		/
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であかさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、自立たずさげない言葉かけや対応等)	◎	毎月のミーティングでご利用者様一人一人の状況を把握し、ほこりやプライバシーを損ねないように皆で話し合いを行っている。	◎	◎	◎	勉強会の中で、職員は利用者の人権や尊厳などの学ぶとともに、ミーティングを活用して、誇りやプライバシーなどを職員間で話し合い、意識した対応をしている。また、入浴時や衣類の着脱時、排泄介助時など、特に職員は利用者の羞恥心に配慮をしながら、見守りやサポートをしている。さらに、職員は、居室を利用者のプライベートのある空間と認識して、入室時にはノックや声かけをしてから入室するとともに、不在時には換気を兼ねて、許可を得た上で、入り口のドアを開けている。	
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	トイレ誘導の声掛けや介助時のプライバシー等には注意するよう職員間で徹底している	/	/	/		
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	居室に入室する時はノックをし、声を掛けてから入室するようにしている。	/	/	/		○
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	個人情報保護方針に基づき入職時雇用契約書に署名・捺印をしている。すべての職員が理解をしている。	/	/	/		/



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者にも助けを求めたり教えたり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	施設に畑があり、園芸が得意なご利用者様に野菜の育て方等を教えて頂いたり、洗濯物をたたんで頂いたり、食事の準備等のお手伝いをさせて頂くと感謝の言葉を伝えたりしながら良い関係が築けるように努めている。				職員は、利用者同士の関係性や性格を把握して、トラブルが起こらないように、配席などの考慮をしている。中には、大きな声を出して、言い合いなどのトラブルが起こることもあり、職員は早期に利用者同士の間に入って、別の場所へ移動して花を觀賞したり、話しを聞いたりするなどの対応をしている。また、1人で居室で過ごす時間が長くなりすぎないように、職員は利用者一人ひとりの生活リズムに配慮するとともに、孤立しないようにリビングで他の利用者と一緒に過ごす時間を大切に考えた支援にも取り組んでいる。さらに、話し好きの利用者が、他の利用者にも積極的に声をかけて励ましたり、会話を楽しんだりする様子も見られる。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	出来る事はお互いに声を掛け合って共同生活している事を理解して頂いている。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	仲の良いご利用者様同士が過ごせるよう座る位置を考慮している。世話好きなお利用者様にはみんなのコップを配って頂いたり、テーブルを拭いて頂いている。居室にいらっしゃる方にはみんなでカラオケやトランプ等をしようと声を掛け、リビングに出て来て頂き、孤立しないように注意している。				
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者にも不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	ご利用者様同士のトラブル時は職員が仲裁に入り解決できている。今まで大きなトラブル等なし				
12	馴染みの人や場所との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	家族との会話の中で聞き取り把握はしている				
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていたりなど、これまで大切にしていた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	近所の人に会いたいと言われる方もおられ、可能な限りは支援しているが、コロナ禍で面会は制限している。お手紙のやり取り等されている方もいらっしゃる。				
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	散歩や買い物など出来る事は希望に沿うようにしているが、時に職員ペースになる事もある	△	○	○	コロナ禍において、事業所には外出制限が設けられ、以前のような自由な外出はできていない。事業所周辺の自然豊かな環境を活かして、日常的に散歩に出かけたり、庭に出て、綺麗に手入れされた花や家庭菜園を眺めながら外気浴をしたりするなど、利用者が気分転換を図ることができるよう支援している。また、通院支援の際に、ドライブを楽しんだり、感染状況を見計らいながら、空いている店の時間帯に、少人数で買い物に出かけたりするなど、可能な範囲で、利用者や家族の希望に添えるような外出支援が行われている。さらに、車いすの利用者にも、同様の外出支援に取り組んでいる。中には、敷地内にある家庭菜園で、水やりや草引きなどを行い、職員と一緒に野菜づくりを楽しんでいる利用者もいる。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	ご家族様との外出が主で、地域の方やボランティアの方との外出支援は出来ていない。ただ、今はコロナ禍により外出は控えてもらっている。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	ご利用者様個々の状態を把握し、課題が有る時はその都度ミーティングを行っている。				事業所では、利用者一人ひとりのできることやできそうなことを把握して、自分でできることはしてもらい、職員は必要以上に口や手を出さず心にかけての支援に努めている。また、職員は利用者の力を見極めて、食事の際に、始めの何口かを自分で口まで運んでもらうよう見守りしたり、排泄支援時に、自分でズボンを上げてもらったりするなどの生活リハビリにも取り組むとともに、ラジオ体操や散歩などを取り入れて、利用者の心身機能の維持に努めている。定期的に、理学療法士等の訪問があり、歩行訓練や下肢運動などを利用者と一緒にするとともに、マッサージに対応するなど、利用者にも喜ばれている。中には、介護計画の目標やサービス内容に、歩行訓練や下肢運動などのメニューを取り入れて、個別のリハビリに取り組んでいる利用者もいる。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	ご利用者様個々のADLの状態を把握し、出来るだけ身体機能が維持・向上できるように毎日リハビリを行っている。また、作業療法士の指導のもと少しでも残存能力を発揮できるように支援している。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	洗濯物たたみ等、自分の役割と思い、進んでお手伝いして下さるご利用者様には手を下さずに見守りしている。畑仕事やガーデニングが趣味の方には自由に庭に出て収穫等して頂くよう支援している。			○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	普段の会話や家族との会話の中でできる事を見つけるように把握している。				洗濯物干しやたたみ、食器洗い、土筆の袴取り、野菜の皮むき、テーブル拭きなど、職員は利用者にも役割や出番を担ってもらえるよう支援している。洗濯物たたみは利用者の日課にもなっており、洗濯物を取り合せて些細なトラブルになることも見られたため、職員は順番に行えるようにしている。また、得意なことや好きなことを役割として行ってもらえるように働きかけ、野菜づくりやカラオケを歌う、カレンダーをめくってもらうなどの役割や出番を担ってもらうとともに、一緒に行うなどの支援にも努めている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごすように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	洗濯たたみやテーブル拭き・買い物など個々に合わせた支援ができるようにしている。出来るだけ好きな事を取り入れるように支援している。	○	◎	○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	ご家族様やご利用者様の希望を聞き把握できている。家族の希望にて職員と一緒に洋服を買いに行ったりおしゃれを楽しんでいる方もおられる。				起床時に、自分で着る服を選んで着替えるとともに、化粧やマニキュアなどのおしゃれを楽しんでいる利用者もいる。マニキュアを付ける際には、職員と一緒にやっている。また、服の形状などが伝わりやすいように、メモ紙に絵を書くなど、職員は利用者様に伝わりやすいような工夫も行われている。さらに、整容の乱れや汚れが見られた場合には、職員がさりげなく声をかけ、フォローをしている。定期的に、事業所には訪問美容の来訪があり、ベッド上で過ごすことが多い重度の利用者にも、好みを伝えてカットしてもらうことができている。加えて、白髪染めを希望する利用者もおり、家族が持参したカラー剤を使用して、職員が毛染めの支援を行い、利用者に大変喜ばれている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	季節にあった服装など家族と相談しながら持参してもらったり家族と外出しカットに行っているかたもいらっしやる。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	自己決定ができないご利用者様は、職員がご家族様に聞きながら支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	外出時等は少しでもおしゃれが出来るよう声掛けして支援している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくなりカバしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	整容の乱れがある場合はさりげなく声掛けして更衣をしている。	◎	○	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	ご家族様が一緒に同行し、カットに行かれる方もおられるが、ほとんどの方は施設に来てもらってカットしている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	ご家族様と相談しながら、髪型や服装に気をつけている。			○	
		h	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	口から食べる事の大切さや皆と一緒に食べる楽しさを職員は理解している。				
17	食事を楽しむことのできる支援	b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	買い物はコロナ禍なので毎回ではないが、ご利用者様に御用がある時には一緒に行っている。調理や片付け等出来る方は一緒に手伝ってもらっている。			○	法人の栄養士がバランスの取れた献立を作成し、コロナ禍において、職員のみで食材の買い出しにゆきながら、利用者に野菜の皮むきや調理の下ごしらえ、食器洗い、後片づけなどを手伝ってもらいながら、職員が調理をしている。事業所の敷地内にある菜園で野菜を収穫した時や、近隣住民から野菜の差し入れをもらった時には、土筆を卵とじにするなど、旬野菜を使用したメニューを1品加えた料理が食卓に上ることもある。毎月、利用者と一緒にたこ焼きづくりをしたり、イベントの際に、ケーキのほか、特別食を用意したりする工夫も行われている。また、入居時等に、職員は利用者一人ひとりの食物アレルギーや苦手な物も把握しており、代替品を用意するなどの対応をしている。食器類は、入居時に使い慣れた物を持参してもらったほか、事業所で用意した使いやすい物を使用している。食事の際に、なるべく職員は一つのテーブルに1人が座り、見守りや介助をしながら、利用者と同じメニューを食べることができる。利用者の状態に応じて、トロミやミキサー食などの食の形態にも対応している。中には、調理の匂いや様子を見ながら、「今日のご飯は、何か」と食事を楽しみにしている利用者もいる。さらに、調理方法や残食などを職員間で話し合うとともに、必要に応じて、法人の栄養士に相談することもできている。
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	調理や片付け等出来る方には一緒に手伝ってもらっている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入所時にアレルギーや食べれないもの・好きな物など聞き把握できている。牛乳が飲めない方には他の物で対応している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって音なつかしいもの等を取り入れている。	◎	旬のものを取入れ、利用者が美味しいと言える献立にしている。好きなものを聞き、取り入れるようにしている。毎年職員がつくしを取ってきて、ご利用者様と昔話をしながら一緒にほかまを取って夕食にお出ししている。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろいろり器の工夫等)	◎	可能な限り普通食での対応をしているが嚥下状態等や体調面でキザミやミキサーになる方もおられるので、少しでも美味しく提供できるように器等の工夫をしている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	入所時、使い慣れた物を持参していただいている。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	一つのテーブルに必ず1人職員が着き、ご利用者と一緒に食事を食べながら、声掛けや介助を行っている。			◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	食事を作っている時に今日は何かなにか楽しみが少しでも増えるように配慮している。	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	法人の栄養士がカロリー計算をしてくれている。施設でも栄養バランスや水分摂取量など確保できるようにしている。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	食事が少量な利用者には適宜声掛けして少しずつ摂取してもらうように支援している。お茶が嫌いな方には他の飲み物で対応することもある。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	メニューに偏りがあった場合は栄養士に相談したり職員で検討し、いろいろりやバランスなど見た目にも心がけている。			◎	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	刃物やまな板等は都度消毒をし、衛生管理を徹底している。勉強会でも全員に周知徹底している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	口腔ケアの重要性は勉強会等で職員全員が周知・理解し、毎食後口腔ケアを行っている。	/	/	/	職員は勉強会等で学び、口腔ケアの重要性を理解している。毎食後、職員は声をかけて、利用者は口腔ケアを実施している。自分で歯磨きができる利用者を含めて、職員は全ての利用者に、磨き残しや異常などの口腔内の様子を確認するとともに、必要に応じて、見守りや仕上げ磨きなどのサポートをしている。また、月1回歯科医の往診を受けている利用者もあり、「口腔衛生管理にかかわる助言内容」の様式を記載して提出してもらうなど、職員は口腔ケアの指示やアドバイスをもらうとともに、支援方法の確認をするなど、適切な支援に繋がっている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	口腔ケアの介助時異常がないか 観察をしている。	/	/	◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	毎月1回歯科医師が来て口腔衛生管理にかかわる助言・指導を行っている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	食後は義歯を外し、洗浄している。夕食後は入れ歯をお預かりして洗浄しポリドントで消毒を行っている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	◎	食後に磨くということを習慣にし、歯磨きができる方にはご自分でしてもらっている。その後磨き残しがないか確認し、あれば介助を行っている。	/	/	◎	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	出来るだけ 排泄の自立を目標にしている。布パンツで対応できる方には布パンツで対応している。	/	/	/	事業所では、利用者がトイレで排泄できるよう支援している。職員は利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、こまめな声かけやトイレ誘導をしている。また、トイレの入り口には、カーテンが掛けられ、プライバシーに配慮した支援も行われている。さらに、利用者の重度化に伴い、ベッド上で過ごすことが多く、立位を取ることが困難な場合には、おむつを使用して、ベッド上等での排泄支援をしている。中には、利用者の状態に合わせて、夜間にポータブルトイレを使用するとともに、夜間のみおむつを使用している利用者もいる。加えて、利用者の排泄状況に応じて、紙パンツやパッドの大きさなどの適性を職員間で話し合うとともに、家族等に確認の上で使用している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	便秘が及ぼす影響について把握できている。新人職員には都度説明している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄の習慣やパターンを把握し、本人の生活リズムに沿った声掛け・誘導などを行い、排泄表に記入している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	寝たきりの方もいらっしゃるが、基本トイレでの排泄で支援している。オムツ等は個々にあったものを職員間で話し合い、本人にとってどれが一番よいか決めている。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	認知症の事を理解し、職員間でオムツ使用の必要性を理解し、少しでも改善できることはないか検討をしている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	排泄表を確認し、時間があいているご利用者様には声掛けし、誘導をしている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	オムツ使用時は家族に相談し、少しでも快適なものを選択できるよう支援している。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	◎	個々に合わせてオムツやパッドを検討し、使い分けている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	日々の運動や水分量にて自然排便を促すようにしている。出来るだけ下剤を使用しないよう野菜を増やしたり、センナ茶等も取り入れている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	△	職員の配置等で曜日・時間の設定はせざるを得ない。できる限り本人の希望を確認し、入浴出来るよう支援しているが、体調面などを考慮して希望に添えない時もある	◎	/	○	利用者は、午前中の時間帯を活用して、週2回入浴できるよう支援している。夏場には、週3回の入浴支援をしている。1階はリフト浴が設置され、利用者の身体状況に合わせて、職員は使い分けをしながら、安心安全に入浴できるよう支援に努めている。また、浴室の入り口には、「ゆ」の暖簾が掛けられ、温泉気分を味わいながら、利用者の希望に応じて、湯の温度や湯船に浸かる長さ、入浴剤の有無に対応するなど、利用者のペースに合わせて、ゆったりとした楽しみのある入浴支援にも取り組んでいる。さらに、入浴を拒む利用者には、無理強いすることなく、職員が日にちや時間帯を変えて声かけするなどの工夫を行い、入浴してもらうことができている。加えて、重度の利用者や湯船に浸かることを嫌う利用者には、シャワー浴や足浴の対応をするなどもある。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	できる限りゆっくり入浴できるように支援している。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	個々の能力に合わせて一般浴やリフト浴など支援している。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	◎	入浴拒否の方にも出来るだけ気持ちよく入れるよう、無理強いせず時間をおいて支援している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	バイタル測定し、体調面や表情から健康状態を判断し、入浴が可能か確認している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	日中の活動状況や毎日の睡眠状況を朝の申し送り等で把握している。	/	/	/	事業所には、入居前から継続して睡眠導入剤を服用している利用者があるものの、主治医に利用者の状態を報告して相談をしながら、減薬に努めるとともに、安易に服薬に頼らないよう取り組んでいる。また、日中の過ごし方を工夫したり、散歩などの外気浴を取り入れたり、ケア方法を検討するなど、職員は夜間に利用者が良眠できるよう努めている。また、夜間に眠れない日が続く場合には、利用者の体調面を考えて、医師に相談して、服薬に繋がることもある。中には、20時頃まで、眠れない利用者の話を聞いてくれる他の利用者もいる。さらに、100歳を超える高齢の利用者もおり、体位変換などのため、エアマットを使用している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	昼夜逆転しないよう、なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えている。	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	医師とご利用者様の状態を観察・話し合い、出来るだけ薬を減らせるように支援している。昼夜逆転しないよう日中リハビリや散歩・レクレーション等声掛けし日中過ごしていただいている。ほとんどのの方が安定剤なく良眠できている。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	昼食後には居室でゆっくり休めるよう支援している。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	◎	電話がかかってきたら取次ぎし、遠方にいるご兄弟に手紙を書いたりしているご利用者様は、お手紙を預かりポストに投函している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	入所時に説明しており、ご希望には出来る限り対応できるようにしている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	希望のある方は個々に対応している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	届いた手紙等はご本人様へ手渡している。返事を書かれる方もおられる。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	入所時にご本人・ご家族に説明しており、いつでも連絡が取れるよう支援している。連絡事項にてお電話をした場合、ご本人・ご家族様のご希望があれば代わってお話をさせて頂いている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	ご利用者様にはご家族様の了解のもと、お小遣いとして少額を預かっており、買い物・病院等に行き預かっている小遣いからご自分で支払う方もおられる。	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	◎	衣類・お菓子等、ほぼご家族様が買ってくるが多いが、買いたいものがある場合は一緒に行き可能な限り支援している。	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」など一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	認知症施設の為、お金を渡すと何処にしまったか分からなくなったりされるので、ご家族様と相談しお小遣いの管理は各ユニットのチーフと施設長で管理をし、毎月使った金額をご家族に報告している。ほとんどのご利用者様が自分でもっている方はいないが、買い物をする時にお金をお渡し、お支払いしていただく等支援おを行っている。	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	必要なものはご家族様と相談しながら支援している。	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	金銭管理規定に基づき管理している。月1回領収書と明細を家族に渡しサインをもらっている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	入所時にご本人様・ご家族と話し合い、出来る限りニーズに合わせて対応している。	◎	/	○	コロナ禍において、事業所には外泊や外出などの制限が設けられており、利用者や家族から出された希望や要望には、職員間で検討し、可能な範囲で柔軟な対応に努めている。
<b>(3) 生活環境づくり</b>									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	玄関はいつも開放しており地域の方や家族がいつ来てもよいようにしている。	◎	◎	◎	玄関先には、手入れされた鉢植えにパンジーなどの花が植えられているほか、敷地内にある庭の花壇や菜園などの環境整備が行われている。馴染みの地域住民が、玄関先に野菜の差し入れを持ってきたり、事業所で使用する古新聞を置いてくれたりするなど、気軽に立ち寄ってもらうこともできている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を感じており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	◎	各ユニットごとにご利用者の状態に応じてソファの位置などを変えたり、季節に応じた飾りつけをご利用者様と一緒に作り、楽しみながら飾りつけを行っている。	◎	○	○	企業の元保養所を改装した事業所は、1階と2階のユニットで、食堂やリビングの構造に差異があるものの、利用者が過ごしやすいように、ソファや家具を配置するなどの工夫が行われている。大きなガラス窓がある共用空間は、採光が入り明るく、清掃や換気が行き届き、快適な空間となっている。また、窓から外の山々や畑の風景を眺められるほか、訪問調査月の12月には、共用空間にクリスマスツリーの飾りや装飾が行われ、利用者や来訪者は、季節を感じることができる。さらに、建物が建てられてから長年が経過しているが、職員が壁紙を貼り直すなどの細やかな補修や手入れが行われている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎日清掃を行い、衛生管理を徹底している。トイレ汚染時等速やかに掃除・消毒・消臭をしてご利用者様ご家族様が快適に過ごせるようにしている。	◎	◎	○	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	季節の生け花を飾ったり、季節感が出るような飾りを飾って支援している。	◎	◎	○	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	気の合う仲間同士で過ごせるようにリビングを配置し、玄関や庭にも椅子を置いて自由に過ごしてもらっている。	◎	◎	◎	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	家族や本人の希望があれば使い慣れたものを持ってきてもらっている。	◎	◎	◎	居室には、ベッドとタンスが備え付けられている。利用者は、馴染みの家具や使い慣れたテレビなどを持ち込むことができ、配置を考えながら、職員は居心地の良い空間となるよう支援している。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	トイレ表示をしたり、手すりの設置をし、廊下をスムーズに移動できるよう配慮をしている。	◎	◎	◎	◎ 建物内のトイレや各居室には表示が付けられているほか、浴室の入り口には暖簾をかけるなど、利用者が混乱しないよう工夫されている。建物は、元保養所の構造の名残があり、2階の廊下には砂利敷きのスペースが設置され、利用者がゴミ捨て場と間違えてゴミを出すことも見られるため、動物の置き物や飾り付けを行う工夫を行い、きれいに保たれるようになっている。さらに、事業所には新聞が配達され、順番に手に取って読んでいる利用者もいる。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞は毎日読めるようリビングに置いている。ご利用者様の居室には好きなものを置いて頂いている。危険なもの等は家族と相談しながら支援している。	◎	◎	◎	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていること、異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけることも済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	◎	日中は玄関・門も開けており、いつでも気軽に来て頂けるようにしている。	◎	◎	◎	職員は勉強会等の中で、鍵をかけることの弊害を理解しており、日中に玄関や門扉の施錠は行われていない。夜間は防犯のため、玄関等の施錠をしている。また、利用者の安全面を考慮して、2階の階段部分のみ、転倒防止のため施錠をしている。また、2階からエレベーターを使用して、1階に降りることは可能となっている。利用者自身でエレベーターを操作して昇降し、自由に屋外に出て、庭を散歩する利用者もおり、職員は見守りや声かけをしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	入所時に説明している。現在施錠を希望する家族はいない。	◎	◎	◎	
<b>(4) 健康を維持するための支援</b>									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	入所時サマリーや家族からの聞き取りにて把握し、全職員に周知徹底している。もし個々の飲み薬がわからない時にはすぐに確認ができるようご利用者様全員のお薬の説明書ファイルを1か所に置き確認できるようにしている。尚、お薬が変わるたびに説明書も更新している。	◎	◎	◎	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	毎日バイタル測定をし、朝のミーティングで身体状況の変化を申し送りし、夜間の状態も日勤が周知できるようにしている。出来る限り同じ職員を同じユニットに配置し、ご利用者様の身体変化にいち早く気が付けるようにし、早期発見に努めている。	◎	◎	◎	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	勤務年数の長い職員が多い為、ご利用者様の状態変化に気づくことが出来、重度化の防止や適切な入院が出来ている。	◎	◎	◎	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	ご希望される方はかかりつけ医に受診されている。	◎	◎	◎	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	医療機関と連携を取り、定期検診や相談、受診などを行い、必要があれば専門医に紹介をお願いしている。希望のかかりつけ医がいる場合は、現状がわかるように情報を提供し、受診できるよう支援している。	◎	◎	◎	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	医師と連携を取りながら、受診結果の報告、必要に応じて家族に相談しながら行っている。	◎	◎	◎	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院の際には地域連携室と定期的に面会や電話連絡をし、連携をとっている。	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	地域連携室と定期的に面会や電話連絡をし、早期退院ができるように情報交換し支援できている。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	常時看護師がいるようシフトを組み、ご利用者様に状態の変化がみられた時には協力医療機関に報告・相談をし、医師の指示のもと必要な医療行為を行っている。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	緊急時等もすぐに対応できる体制ができています。職員に看護師がいる為、早期の対応ができています。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできる体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	日々のバイタルチェックや週1回の体重測定など健康管理をしながら、日ごとの状態の把握に努める事で異常の早期発見につなげている。勉強会で緊急時の対応なども定期的に行っている。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	服薬ファイルを作成し、二重チェック・飲み忘れ・誤薬を防ぐように心がけている。職員一人ひとりが理解している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	配薬、確認を別の職員がするようにしている。職員はご利用者様の薬をファイルにて確認するよう徹底している。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を定期的に行っている。	◎	薬に変更があった場合は常にご利用者様の状態変化がないか確認し、状態変化があった場合には、他院の場合でも協力医療機関に報告し、確認を定期的に行っている。	/	/	/	
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	重度化した場合や終末期の在り方について、入居時に説明・同意を得ている。状態変化の段階ごとにご本人様・ご家族様・医師と連携をとり意向を確認して方針を決めている。	/	/	/	法人・事業所として、「利用者に対する健康管理について」「看取りに関する指針」が整備され、入居時に、管理者等は家族等に、対応可能なことなどの説明を行い、意向を確認している。また、状態の変化や重度化が見られた場合には、利用者や家族に意向を確認するとともに、医師や看護師、職員を交えて話し合い、方針を共有している。入居の期間が長くなると、最期まで事業所での看取り介護を希望する利用者や家族もおり、事業所に看護師が配置されているほか、母体医院の医師と24時間体制での連携が図られ、チーム体制で看取り支援が行われている。今までに、事業所では多くの看取り支援を経験しており、職員には、終末期対応などの勉強会が行われ、職員の不安軽減やスキルアップに繋げている。さらに、看取り支援時には、母体医院の医師がモニターを使用して、取り付けたカメラでバイタルなどの利用者の様子を診るなど、いつでも確認できる体制も整備され、利用者や家族、職員の安心感にも繋がっている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	重度化・終末期の在り方について、ご本人様・ご家族様・協力医療機関の医師と連携を取り方針を共有している。	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	終末期の対応について職員の勉強会の実施を行い、不安軽減やスキル向上に努めている。状態に応じて話し合い、ながら支援している。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	できること・できないこと・対応方針についてご家族様に十分な説明を行い、理解を得ている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	ご本人様・ご家族様・主治医・介護職員・看護師を含め、連携をとりチームで支援できる体制を整えている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	ご家族様への説明を十分に行ない理解をしてもらっている。遠方のご家族様にも不安にならないように適宜連絡をとれるようにしている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	感染対策委員会を設置し、感染症について定期的に勉強会をし予防・対策を行っている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	感染症のマニュアルを作成しており、定期的な勉強会を行っている。新人職員にはその都度説明をし、全員が対応できるように指導している。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	◎	市役所のホームページで地域の発生状況など確認し、感染予防や対策等の最新情報を取り入れ対応している。	/	/	/	
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	ご利用者様はもちろん職員も手洗いやうがいの徹底をしている。ご来訪者様にも玄関にて体温測定・手のアルコール消毒をさせていただいている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	毎月ご家族様にお便りを送り、近況報告を行っている。面会に来られた時にも状態の説明をしている。				コロナ禍以前は、行事の際に、家族の参加を呼びかけていたものの、働いている家族が多く、参加協力は難しい状況となっていた。コロナ禍において、面会や外出制限が設けられ、家族への行事案内は自粛しており、現在は、ガラス越しや2階の窓からの顔を見るなどの面会に留まっている。家族の気になることや不安などがあれば、気軽に管理者等に電話連絡してもらえよう伝えている。また、前回の目標達成計画に掲げて、毎月、事業所の行事や利用者の日常の様子分かるように、アトラス奥道後便りを活用して、新たに職員の入職などを写真入りで伝えるとともに、家族から出された意見を反映して、新入職員もいることから、職員全員の顔写真入りの紹介チラシを全ての家族に配布している。利用者家族等アンケート結果から、職員の入退職などの異動を含めた事業所の出来事などが十分に家族に伝わっていないことが窺えるため、担当職員の交代を家族に報告したり、運営推進会議や来訪時を活用して、職員の入退職や異動を報告したりするなど、家族にアンケート記載の意図や意見を確認するとともに、周知方法を職員間で検討することを期待したい。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	△	ご家族様もお仕事をされている方が多くまた、コロナ禍の為、面会制限を行っているのなかなか現状は難しい。今後どのようにしたらよいか検討が必要	x		△	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たよりの」発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	ご家族様が知りたいことや不安に感じている事等があればいつでも電話連絡して頂きその都度対応を行っている。ご利用者様のご様子や行事等は毎月お便りを送りご報告をするようにしている。	◎		◎	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	今後起こりえる認知症の悪化や状態を説明しながら適切にかかわり続けてもらえるよう理解してもらっている。				
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	事業所の運営上の事柄や出来事についてはその都度お手紙にて報告を行っている。また、運営推進会議や面会時にも報告をしご理解して頂いている。		x		
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎	今後起こりえるリスクについて面会時やケアプランにてご説明を行っている。				
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	ご家族様の面会時にはできるだけ状態報告を行い、ご意見やご希望を伺い、気軽に相談して頂けるよう対応している。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	契約時に十分説明をして理解・納得を得るとともに何かあればいつでも相談できるよう掛けている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	契約時に十分説明をして理解・納得していただいている。退去の希望がある場合は十分な説明をし、希望先にスムーズに移れるように支援している。				
<b>III. 地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議に参加してもらったり、地域行事への参加等で事業所を知ってもらい理解を図っている。		◎		
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	町内会に入り地域行事に参加したり、自主防災会に所属し地域の防災訓練にも参加している。運営推進会議や地方祭等を通じ地域の方との輪が広がっている。地元の小学生・中学生の交流も毎年増えている。		○	◎	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	顔なじみの関係が少しずつ増えている。				
		d	地域の方が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	地域の方々声が掛け合い、古新聞を集めて持ってきてくださっている。今後もっと気軽に立ち寄れる施設を目指したい。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	回覧板をもって行ったり散歩時に挨拶をし声掛けを行っている。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	地域の方に七夕等の笹をもらったり、地域行事に参加することで近隣の住民と少しずつ広がりが増えている。ボランティアは今とところない。				
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	地域の小学生のふれあい集会・中学生の職場体験・福祉授業等で協力を得たりまた、駐在所や近郊福祉施設の方に運営推進会議に参加してもらい関係を築いている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人の参加がある。	△	地域の区長さんや民生委員さん・駐在所の方など地域の方・ご利用者様・ご家族様にも参加していただいている。しかし、ここ2・3年はコロナ禍の影響で参加していただくことができず、議事録を地域の方々に持って行き情報収集等を行っている。	×	/	△	運営推進会議には、利用者や家族のほか、地域の区長や駐在所の警察官、民生委員、他のグループホームの職員、市担当者、地域包括支援センターなどの多くの参加協力を得て開催することができていた。コロナ禍において、現在は書面開催となっており、職員間で話し合った会議の議事録を、会議の参加メンバーに毎回配布して報告をしている。事前に、議題などの意見や助言を参加メンバーに出してもらうなど、書面会議においても、相互に意見交換を行いながら、有意義な会議となることを期待される。また、全ての家族に、簡潔にまとめた会議報告が行われることを期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況（自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等）について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	○	外部評価の結果が届いた時は運営推進会議にて報告するようにしている。コロナの影響で開催できなくても議事録は地域の方々へ持って行き公表を行っている。	/	◎	◎	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	地域の方の意見を聞き偶数月の第2月曜日にしている。今後テーマに合わせてメンバーの参加も検討したい	/	/	◎	
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	理念は開設当初からあり、変更はしていない。新人研修を行い、理念について共通認識を持ち地域密着型の意義を職員全員が理解している。	/	/	/	/
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	施設内で見やすい所に理念を掲げている	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的に運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	個々に適した勉強会への参加や講習会への呼びかけを行っている。研修報告書は全員が読めるようにしている。	/	/	/	/
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	個々にあった研修に参加できるよう検討している。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	能力向上を目指し、研修を受けたり、資格が取れるよう便宜を図っている。常勤・パートの人材確保により、勤務状態を確保している。福利厚生も充実しており職員がやりがいをもって働いている。長く勤務している職員が多い。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	包括支援センターを通じ、地域の同業者と互いに意見交流を持ちサービスの向上につなげている。運営推進会議に参加していただいたり、納涼祭に参加したりと交流を図っている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	◎	ストレス軽減のために定期的に女子会や海でバーベキューをしたり、忘年会・社員旅行などを通してリフレッシュできる取り組みができています。	○	◎	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	◎	高齢者虐待防止法について常に勉強会で話し合っている。具体的にどのような行為なのか職員は理解できている。	/	/	◎	定期的に、事業所では虐待や不適切ケアの防止などの勉強会を実施するとともに、年4回虐待防止委員会等を開催し、職員間で話し合いをしている。また、職員は日々のケアの振り返りや考える機会を設けるとともに、ミーティング等を活用して、話し合いが行われている。また、大きな声や馴れ馴れしい言葉づかいが見られた場合には、職員同士で注意し合うほか、管理者やチーフに伝えて、該当職員に指導や注意喚起をしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	日々のケアについて勉強会で話し合いをしている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員の体調面なども考慮し、できるだけストレスがないように普段の声掛けにも注意している。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	身体拘束をしないことを職員が徹底理解している。緊急性のある場合を考え、どんなことがあるか、マニュアルがあり理解している。	/	/	/	/
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	身体拘束についてミーティングで話し合っている。身体拘束適正化の委員会を立ち上げている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	現在は家族からの施設への希望はない。できるだけ自由な暮らしを支援している。現在は身体拘束はない。	/	/	/	



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	○	勉強会のテーマとしており、職員が理解できるよう取り組んでいる。成年後見制度を利用している方もおられる。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	包括支援センターや他の機関との連携を築いている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	緊急時の対応マニュアルがあり勉強会などで基礎知識や救急処置法を学んでいる。定期的な勉強会も行っている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	◎	定期的に応急手当の方法など人形を使い研修を行っている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットをノートに書き勉強会で検討し、職員間で再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	ご利用者様ひとりひとりの状態から考えられるリスクや危険等をを検討し、事故防止につなげている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	◎	苦情対応マニュアルがあり、苦情があった時には報告書に記入している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	苦情があった場合はマニュアルに沿って対応している。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	苦情が寄せられた場合は事実確認を、的確に速やかに対応するように心がけている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	入所時にご本人様・ご家族様に説明をしている。面会時に管理者や職員に伝える事が多い。	◎		◎	電話連絡時や来訪時を活用して、職員は家族に利用者の様子を伝え、意見や要望を聞くとともに、出された意見には可能な限り対応をしている。また、家族には苦情や相談の窓口を説明している。さらに、職員は利用者から、夜勤時や更衣時などの機会を活用して、意見や要望を聞くとともに、表情やしぐさから思いをくみ取るよう努め、対応をしている。加えて、管理者は夜勤の業務にも携わっており、職員との話しやすい関係も築かれ、日常的により良い支援方法などを話し合い、サービスの質の向上に繋げている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	苦情や相談ができる公的な窓口があることは契約当初に説明は行っている。苦情がある時は管理者に24時間連絡がとれるよう連絡先を伝えている。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	何かあれば常に報告できる体制になっており、必要な時は来ていただいている。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	毎月勉強会で職員の意見を聞いている。都度話し合いもできている。			◎	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年1回職員全員で自己評価に取り組んでいる。				外部評価の自己評価は、職員全員で取り組むとともに、管理者やチーフを中心に取りまとめで作成をしている。また、ミーティングなどを活用して、サービスの評価結果を職員に報告するとともに、目標達成に向けて取り組んでいる。さらに、運営推進会議を活用して、参加メンバーに評価結果や目標達成計画を伝え、家族にも送付して報告をしている。利用者家族等アンケート結果から、家族にサービス評価の取組みが十分に理解されていないことが窺えるため、コロナ禍の収束後には、運営推進会議等を活用して、サービス評価の意義や目的を伝えたり、参加メンバーや家族に取組み状況のモニターの協力を呼びかけて、意見をもらったりするなど、周知方法を職員間で検討することを期待したい。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	可能な限り実現に向けて取り組んでいる。途中でたどりつかない事もあるが職員間で検討し実現できるよう努力している。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議やお便り等で報告するようになっている。	×	○	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	災害マニュアルもあり、毎年災害の実地指導を受けている。職員は周知徹底している。	/	/	/	法人・事業所として、災害マニュアルを整備するとともに、年2回様々な場面や災害を想定した避難訓練を実施している。訓練では、地域の避難所に指定されている公民館まで、実際に利用者と一緒に歩いて避難するなどの経験もしている。コロナ禍以前は、地域の防災訓練に参加協力することもできていた。また、事業所として、地域の区長や民生委員に火災などの緊急時の連絡先をお願いするなど、協力支援体制を構築している。さらに、近隣には、土砂崩れが起りやすい場所があり、管理者等は、「万が一、避難が必要な時には、事業所の建物に避難できること」を地域住民に伝えている。利用者家族等アンケート結果から、災害への備えに対して、家族の十分な理解が得られていないことが窺えるため、事業所便りを活用して、避難訓練の様子を伝えたり、コロナ禍の収束後には、避難訓練の様子を写真で事業所内に掲載したり、家族や運営推進会議の参加メンバーに避難訓練への参加協力を呼びかけるなど、家族等への安心安全な取組みが理解してもらえるように、周知方法を職員間で検討することを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	マニュアルに沿って実際に避難経路を通りどりのくらいかかるかなど実際に訓練をしている。	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	消防設備や避難経路・物品など定期的な点検をしている。	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	地域の防災訓練に参加したり、消防と連携をとり、協力・支援体制を確保している。	×	○	○	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	◎	地域の防災訓練に参加したり、消防と連携をとり、協力・支援体制を確保している。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	職員が研修を受けたりした内容は運営推進会議で紹介したり、地域の行事に参加することで利用者や接することもありより理解を深めている。	/	/	/	事業所として、地域の高齢者や家族から相談が寄せられた場合には、適切に対応をしている。コロナ禍以前は、中学生の職場体験の受け入れに協力するとともに、地域の幼稚園児などの訪問があり、積極的に交流を図ることもできていた。コロナ禍において、市行政や地域包括支援センターが主催する会議や研修に参加する機会は減少しているものの、法人内外の他のグループホーム等と協力をしながら、連携を図ることはできている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	地域の方が来られたときに相談等をし、必要な場合は対応できる体制を作っている。	/	×	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	地域の方がいつでも気軽に来られる場所に出来るよう努力していきたい。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	中学生の職場体験や福祉の授業で受け入れを行っている。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	包括支援センターや他の施設との連携を密にし、地域のイベント等にも参加している。	/	/	○	